

資料 2

**佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略
【抜粋】**

佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

目次

1. 総合戦略の策定について.....	1
(1) 策定の趣旨.....	1
(2) 総合戦略の位置付けと期間.....	1
(3) めざすまちの姿.....	12
(4) 総合戦略の進行管理.....	12
2. 総合戦略策定にあたっての基本的な考え方.....	2
(1) 課題への対応とともに長所を活かした政策展開.....	2
(2) ライフステージに応じた“選ばれるまち”の創生.....	3
(3) まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立.....	3
3. 本市の「まち・ひと・しごと創生」における現状と課題.....	3
(1) 市場の縮小と労働力の不足.....	3
(2) 市外へのマネーの流出.....	3
(3) 人口の転出超過.....	4
(4) 少子・高齢化の進行.....	4
(5) 人口減少による生活利便性への影響.....	4
4. 基本目標.....	5
(1) 経済の活力と安定した雇用の創出.....	5
(2) 市内への人の流れの創出.....	5
(3) 子どもを産み育てやすい環境の創出.....	6
(4) 利便性が高く、持続可能な地域社会の創出.....	6
5. 政策の基本方向.....	7
(1) 経済の活力と安定した雇用の創出.....	7
①企業誘致による雇用の拡大.....	7
(i) 多様な雇用機会の創出.....	8
(ii) 新産業育成による雇用の創出.....	8
②観光振興による経済の活性化.....	9
(i) 地域資源を活かした魅力的な観光地域づくり.....	9
(ii) コンベンションやスポーツによる誘客.....	10
(iii) 外国人観光客の誘致・消費拡大.....	10
③農林水産業の成長産業化.....	11
(i) 新規就業者の確保と人材育成.....	11

(ii) 効果的かつ安定的な経営体への転換.....	12
(iii) 生産環境の整備	12
(iv) 生産力・販売力の向上	13
④多様な産業・企業の育成.....	14
(i) きめ細かな創業支援	14
(ii) 市内企業への支援体制の充実.....	15
(iii) 商品開発や販路拡大の支援	15
(2) 市内への人の流れの創出.....	16
①若年層の市内就職支援	16
(i) 大学生等の市内就職の促進	16
②定住環境の充実	17
(i) 通勤・通学環境の整備	17
(ii) 住宅確保への支援.....	17
③市の認知度向上・イメージアップ	18
(i) 地域の魅力や定住情報の発信.....	18
④次代を拓く人材の育成とふるさとづくり	19
(i) 郷土意識を育てる取組の推進.....	19
(3) 子どもを産み育てやすい環境の創出.....	20
①若い世代の結婚・出産の支援	20
(i) 結婚希望者への婚活支援.....	20
(ii) 妊娠から出産後までの支援	20
②子育て環境の充実.....	21
(i) 子どもの保健と医療環境の充実.....	21
(ii) きめ細かな保育体制の構築	21
(iii) 子育て支援体制の充実	22
③仕事と子育ての両立	22
(i) 仕事と子育て等の両立に向けた環境づくり	22
(4) 利便性が高く、持続可能な地域社会の創出	23
①コンパクトなまちづくり	23
(i) 都市のコンパクト化と中心市街地の活性化.....	23
(ii) 中山間地域の活力維持	24
(iii) 公共施設の適正配置と計画的な管理.....	24
②参加と協働によるまちづくり	25
(i) 地域活動や市民活動団体などへの支援.....	25
③地域で暮らしやすい環境の充実.....	26
(i) 地域福祉の充実	26

1. 総合戦略の策定について

(1) 策定の趣旨

首都圏など、一部の大都市を除き、全国的に人口が減少しており、本市においても今後、人口減少が見込まれる。

本市の人口は1995年（平成7年）の24.7万人をピークに緩やかに減少を続け、2010年（平成22年）には23.8万人となり、45年後の2060年（平成72年）には、現在の約2/3の15万人まで減少することが予測される。2060年（平成72年）の人口を年齢階層別に見ると、少子・高齢化が進行し、高齢化率は39%となり、概ね3人に1人が高齢者となることが予測される。一方で年少人口割合（14歳以下）及び生産年齢人口割合（15～64歳）は減少し、特に生産年齢人口割合の減少率が高くなっている。

人口減少や少子・高齢化は、市場の縮小や労働力の減少による経済活力の低下を招き、若年層に魅力ある働く場の減少が進むため、さらなる人口減少、少子・高齢化につながる負の循環を生み出す。

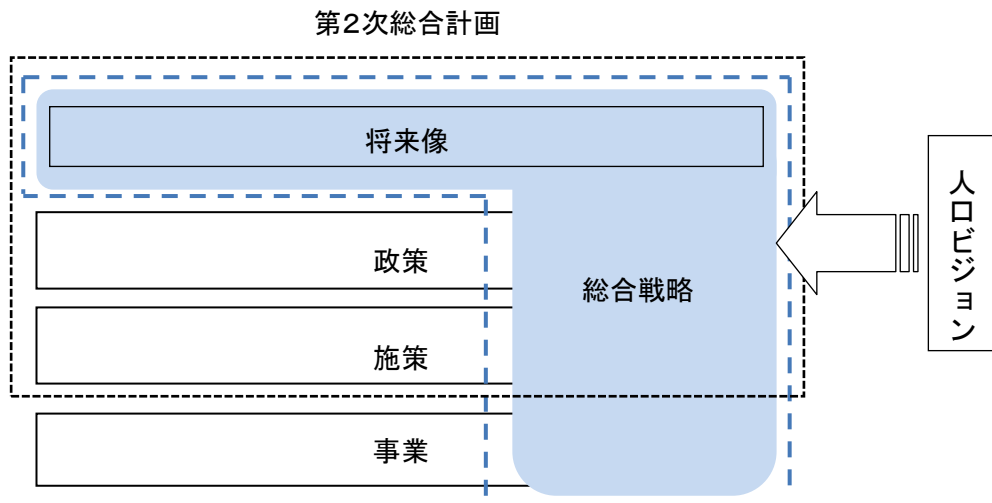
また、経済成長を前提に設計された社会保障制度の維持や人口の増加を背景に整備された社会基盤の維持が困難になることが懸念される。

今後、人口減少、少子・高齢化に歯止めをかけ、それに起因する諸課題の克服や地域経済の活性化につなげていくことで、人口ビジョンに示した将来展望を実現し、活力に満ちた持続可能な地域社会を構築していかなければならない。そのための政策の基本的方向などを本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略として取りまとめる。

(2) 総合戦略の位置付けと期間

平成27年度からスタートした第2次総合計画において、本市の政策の基本的方向と施策の取組方針を取りまとめているが、その中でまち・ひと・しごとの創生に焦点を当てて、重点的に取り組む施策、新たに取り組む事業を示した戦略を、本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略と位置付ける。

また、本総合戦略は、人口ビジョンに示した2060年の本市の将来展望の実現に向けて、2015年度（平成27年度）から、2019年度（平成31年度）までの5年間で取り組む政策を取りまとめている。

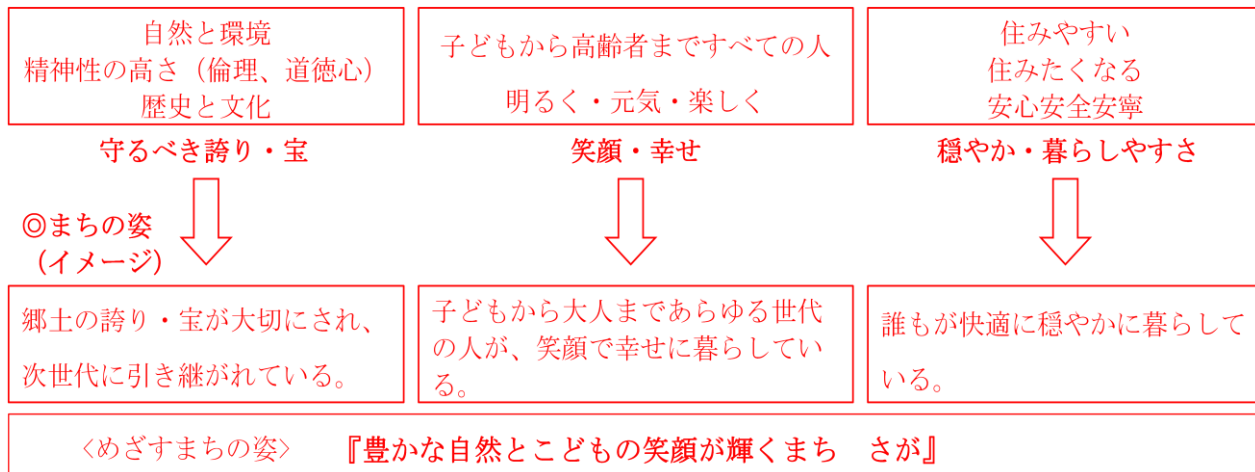


(3) めざすまちの姿

まち・ひと・しごと創生の実現に向け、地域が一体となって本総合戦略を推進していくために、めざしていく“まちの姿”を共有することが求められる。

まち・ひと・しごと創生推進会議における意見及び第2次佐賀市総合計画に掲げる“めざす将来像”を踏まえ、本総合戦略において、“めざすまちの姿”を以下のとおり定める。

◎まち・ひと・しごと創生推進のキーワード



本市は、水や緑、広い空などの豊かな自然、伝統ある歴史・文化とともに、生活の基盤となる都市機能を兼ね備えている。この恵まれた環境を大切に守りつつ、佐賀に住むことに誇りと愛着を持つ人が増えていくことで、子どもから高齢者まであらゆる世代が、穏やかに笑顔で暮らせる“住みやすいまち”をめざしていく。そのことが、誰もが“住みたいまち”となること、さらには、まち・ひと・しごとの創生につながっていく。

(3.4) 総合戦略の進行管理

本総合戦略の実効性を確保するため、PDCAサイクルにより施策の効果を検証し、必要な見直しを行っていくものとする。

2. 総合戦略策定にあたっての基本的な考え方

国・県の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しつつ、3つの基本的視点から本市におけるまち・ひと・しごとの創生と好循環を確立し、人口ビジョンに示す将来展望の実現をめざす。

(1) 課題への対応とともに特長を活かした政策展開

本市の人口や経済の動向、関連した諸施策における課題を明らかにし、課題解決につながる的確な取組や、福岡都市圏との隣接、高次の都市機能と豊かな自然、歴史、産業などの地域特性を活かした取組を展開することで、本市の魅力を高め、“市民が住み続けたいと思えるまち”、“市外の人に住んでみたいと思われるまち”を創っていく。